

## 46 ヒポクラテスの木・二〇〇六

— アンケート、現地踏査による現状の調査 —

稲松孝思

東京都老人医療センター

ギリシャのコス島に医聖ヒポクラテスゆかりのプラタナスの巨樹があり、「ヒポクラテスの樹」と呼ばれている。医療倫理、医学教育のシンボルとして尊ばれ、世界各地でその子孫の木が植樹されている。日本にも一〇〇本以上の「ヒポクラテスの木」があると言われているが、その全貌はよく把握されていない。二〇〇五年の日本医史学会において筆者は、日本の「ヒポクラテスの木」について、文献、インターネット情報などを集積し、篠田株、蒲原株、緒方株、小林株、ギリシャ協会株などに系統を分類できることを報告した。その後、記載のある施設の踏査、アンケート調査などにより、これらの木の現状について調査した。本報告では、以上の調査により現時点で得られた情報にもとづいて、「ヒポクラテスの木」

の現状を中心に報告する。

前回の調査に加え四九件のアンケートの回答を得た。

従来の検討成績との重複を照合した結果、一六四本の

「ヒポクラテスの木」に関する情報が収集できた。総記

載数・生存確認数・枯死確認数・不明株数はそれぞれ

(一六四・六九・三六・五九) 株であった(同一施設・

同一系統の複数の木は一と数えた)。それぞれの系統の

株についてみると、篠田株(四九・一一・一三・二五)

株、蒲原株(二四・一一・六・七) 株、緒方株(一・

一・〇・〇) 株、小林株(六八・三〇・一三・二五)

株、日本ギリシャ協会株(一七・一一・四・二) 株、

原田株(二・二・〇・〇) 株、武田株(三・三・〇・

〇) 株である。二〇〇五年の調査に加え、篠田株が大

幅に増加したが、弘前の岩岡豊麻氏による篠田株配布

先台帳により多数の配布先が判ったことによる。その

現状については未調査のものが多し。今回の調査で広

島の原田株、京都の武田株の存在が明らかになった。

ギリシャ協会株は、従来は一九九〇年株、一九九五年

株が知られていたが、今回二〇〇五年株が追加された。

「ヒボクラテスの木」の現存が現地踏査で確認されたのが一八株、アンケートと共に送られた写真で確認されたのが三七株、ネット上の写真で確認された株は一四株であった。樹幹の性状、葉の形にはかなりの個体差があるが、実生の株が多数あることがその原因であろう。また、同一クローンの株であるはずの挿し木株においても少なからず変異が見られており、枝変わり、生育条件の差などによると思われる。医療・医学倫理も土地により、時代により様々の形を取るであろうか。

枯死が確認されている例が三六例あるが、その死因(?)は様々である。かなり大きくなってから消失した株としては、病院の建て替えのために伐採ないしは移植後枯死した例が目立ち、篠田病院の篠田株、順天堂大学の蒲原株、日赤医療センターの小林株(台風により斬首されたヒボクラテスの木として森岡氏に紹介されているが、今回は病院新築のため根こそぎ伐採された)、名古屋第二日赤の小林株などがある。病虫害で枯死した株として、慶応大学の篠田株、九州大学の蒲原株などがある。この二株については、枯死する前に挿

し木に成功し、子供の株が現地に育っている。植樹したが根付かなかった例は枚挙にいとまがない。何度植えても枯れてしまい、なかなか根付かない所もある。植樹に関係した人たちの熱い思いが裏切られた、残念な思いが伝わってくる。私自身も、ギリシャ協会二〇〇五年株を頂いたが、この思いを追体験してしまい、医療の現状とヒボクラテスへの複雑な思いが交錯している。

なお、今回のアンケート調査において、ヒボクラテスの会(緒方富雄会長) 元世話役・恒任企画(医学映画)社長の恒任直氏、日本赤十字社医療センター名誉院長・東京大学名誉教授の森岡恭彦氏、日本医史学会理事長の蒲原宏氏のご支援を受けた。